

<マニュアル訂正連絡票>

FUJITSU Software

ASP システムメッセージ集 V29

[J2K0-5940-01]

2022年3月31日発行

修正箇所 (章節項) : S5629 の注意 「発信元小区分が SYS, FTP または RMN の場合」の補足情報

旧記事

| 分類 1 | 分類 2 | 詳細 1 | 詳細 2 | 意味 | 処置 |
|--------|-------|-------|------|---------------------|------------------|
| XLOGIN | MACRO | RP065 | — | 誤ったプロフィールで接続を行ったため. | 正しいプロフィールで接続を行う. |

新記事

| 分類 1 | 分類 2 | 詳細 1 | 詳細 2 | 意味 | 処置 |
|--------|-------|----------------|------|---------------------|------------------|
| XLOGIN | MACRO | RP065 RP153 | — | 誤ったプロフィールで接続を行ったため. | 正しいプロフィールで接続を行う. |

2021年9月28日発行

修正箇所 (章節項) : 「1.12 S1200~S1299 のメッセージ」の「S1276」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

- 原因 :
- a. RDB がシステムに組み込まれていない.
 - b. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている.
 - c. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない.
 - d. RCOVRDM コマンドが実行中である.
 - e. RDB 共用バッファが獲得できない.
- 利用者処置 :
- a. XSIPMENU で契約情報を確認する.
 - b. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する. (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 - c. レベルアップインストールにより, SWA/SWA2 を拡大する.
 - d. RCOVRDM コマンド終了後, 再度実行する.
 - e. REFSYS コマンドで RCB サイズを確認して RCB サイズを決定する共通変数の値を再度設定後, IMPL する.

新記事

- 原因 :
- a. RDB がシステムに組み込まれていない.
 - b. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている.
 - c. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない.
 - d. RCOVRDM コマンドが実行中である.
 - e. RDB 共用バッファが獲得できない.
 - f. RCB が正しく獲得されていないため, RDB 共用バッファが獲得できない.
- 利用者処置 :
- a. XSIPMENU で契約情報を確認する.
 - b. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する. (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)

- c. レベルアップインストールにより、SWA/SWA2 を拡大する。
- d. RCOVRDM コマンド終了後、再度実行する。
- e. REFSYS コマンドで RCB サイズを確認して RCB サイズを決定する共通変数の値を再度設定後、IMPL する。
- f. CHGCMVAR コマンドまたはREFSYS コマンドで、システム共通変数 (@RDBUFN) に一度0を設定後、正しい値を再設定し、IMPL を行う。

修正箇所 (章節項) : 「2.2 \$5100~\$5199 のメッセージ」の「\$5141」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

- 原因：
- 1. RDB がシステムに組み込まれていない。
 - 2. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている。
 - 3. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない。
- 利用者処置：
- 1. XSIPMENU で契約情報を確認する。
 - 2. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する。 (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 - 3. レベルアップインストールにより、SWA/SWA2 を拡大する。

新記事

- 原因：
- 1. RDB がシステムに組み込まれていない。
 - 2. システム共通変数 (@RDBUFN) の値がゼロになっている。
 - 3. SWA/SWA2 が不足しているためRDB の制御域が獲得できない。
 - 4. RCB が正しく獲得されていないため、RDB 共用バッファが獲得できない。
- 利用者処置：
- 1. XSIPMENU で契約情報を確認する。
 - 2. REFSYS コマンドでシステム共通変数 (@RDBUFN) にRDB 共用バッファ数を設定した後IMPL する。 (『RDB 説明書(リレーショナルデータベース管理システム)』参照)
 - 3. レベルアップインストールにより、SWA/SWA2 を拡大する。
 - 4. CHGCMVAR コマンドまたはREFSYS コマンドで、システム共通変数 (@RDBUFN) に一度0を設定後、正しい値を再設定し、IMPL を行う。

2020年12月22日発行

修正箇所 (章節項) : 第2章 送信メッセージ \$5057 補足情報一覧 エラーコード 1049 表 2.7 補足情報一覧

旧記事

| エラーコード | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 意味 | 利用者処置 |
|--------|-------------|--------------|-------|---------------------|---|
| 1049 | CIFS エラーコード | Windows ユーザ名 | ドメイン名 | NAS 装置へのユーザ認証で失敗した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Windows ユーザ名、パスワード、ドメイン名が適切であるか確認する。 ・NAS 装置とドメインサーバの時刻が一致しているか確認する。 ・詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する。 |

新記事

| エラーコード | 詳細情報1 | 詳細情報2 | 詳細情報3 | 意味 | 利用者処置 |
|--------|-------------|--------------|-------|---------------------|---|
| 1049 | CIFS エラーコード | Windows ユーザ名 | ドメイン名 | NAS 装置へのユーザ認証で失敗した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Windows ユーザ名、パスワード、ドメイン名が適切であるか確認する。 |

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・NAS 装置とドメインサーバの時刻が一致しているか確認する. ・詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する. ・同時に” S5057” の補足情報:1048 が表示されている場合は, その利用者処置に従う. |
|--|--|--|--|--|--|

2019年2月26日発行

修正箇所 (章節項): 第1章 結果メッセージ S0512 原因

旧記事

S0512

COMMAND NOT EXECUTABLE

コマンドが実行できる条件でない

補足情報:

[コマンド名] [, 詳細コード]

メッセージのレベル:

I

原因:

コマンドが実行すべき環境, 又は条件が整っていない.

| 機能名または コマンド名 | 原因 |
|-----------------|---------------|
| STRPMSL | システム縮退中に実行した. |

新記事

S0512

COMMAND NOT EXECUTABLE

コマンドが実行できる条件でない

補足情報:

[コマンド名] [, 詳細コード]

メッセージのレベル：

I

原因：

コマンドが実行すべき環境，又は条件が整っていない。

| 機能名または コマンド名 | 原因 |
|-----------------|---|
| STRPMSL | a. ログファイルとして@SYSTEM(省略時デフォルト)を指定している，かつ， @SYSTEMを指定したログファイルに対応するシステム暗黙のログファイルが，すべて XUCLライブラリに存在しない。 b. システム縮退中に実行した。 |

2018年6月26日発行

修正箇所(章節項)：「本書の読み方」の「第1部 システムメッセージ」のための基本知識及び約束事項」の「3. 本書での記述形式」

旧記事

(2)送信メッセージの場合

1. メッセージの形式

Snnnn α メッセージ本文 (補足情報) <発信元>

2. 本書の記述形式

Snnnn メッセージ本文 (英文)
メッセージ本文 (和文)

補足情報：

発信元：

メッセージのレベル：α

原因：

利用者処置：

システム処置：

- 注意：
- ワークステーション表示……あり，なし
 - ログ先……SYSLOG, JOBLG

備考：

- "ワークステーション表示……あり"と記されたメッセージは，ワークステーションメッセージキュー及び，ジョブメッセージキューへの送信が行われます。
- "ワークステーション表示(対話型応答)……あり"と記されたメッセージについては，メッセージを発信したジョブのジョブ共通変数'@SPRMSG'の値が@NOの場合に，Rレベルと同様に応答表示されます。それ以外の場合はワークステーション表示されません。応答には次の種類がありますが，メッセージによっては一部のみ選択可能になっています。

再試行： 再度メッセージを発信する原因となった処理を実行します。

続行： メッセージを発信する原因となった事象にしたがって実行します。

打ち切り： CANPGM コマンドが投入されたのと同様に，メッセージを発信したプログラムをキャンセルします。

なお，応答表示された場合に，補足情報に次の情報が追加されることがあります。

[(PGM=プログラム名 [ISN=ISN 番号 [CISN=コピー内 ISN 番号])]]

新 記 事

(2)送信メッセージの場合

1. メッセージの形式

Snnnn α メッセージ本文 (補足情報) <発信元>

2. 本書の記述形式

Snnnn メッセージ本文 (英文)
 メッセージ本文 (和文)

補足情報 :

発信元 :

メッセージのレベル : α

原因 :

利用者処置 :

システム処置 :

- 注意 : ○ ワークステーション表示……あり, なし
- ログイン先……SYSLOG, JOBLLOG

備考:

- "ワークステーション表示……あり"と記されたメッセージは, ワークステーションメッセージキュー及び, ジョブメッセージキューへの送信が行われます.
 - "ワークステーション表示 (対話型応答) ……あり"と記されたメッセージについては, 通知レベルまたは要求レベルのメッセージとしてワークステーションメッセージキュー及び, ジョブメッセージキューへの送信が行われます. なお, 要求レベルのメッセージの場合, メッセージを発信したジョブのジョブ共通変数 '@SPRMSG' に ' @YES 'を指定するとメッセージは送信されません.
- 応答には次の種類がありますが, メッセージによっては一部のみ選択可能になっています.

再試行 : 再度メッセージを発信する原因となった処理を実行します.

続行 : メッセージを発信する原因となった事象にしたがって実行します.

打ち切り : CANPGM コマンドが投入されたのと同様に, メッセージを発信したプログラムをキャンセルします.

なお, 応答表示された場合に, 補足情報に次の情報が追加されることがあります.

[(PGM=プログラム名 [ISN=ISN 番号 [CISN=コピー内 ISN 番号])]]

2018年2月27日発行

修正箇所 (章節項) : 「2.4 S5300~S5399 のメッセージ」の S5310 の「表 2.39 制御機能名が FTPC の場合の原因と利用者処置」

旧 記 事

表 2.39 制御機能名が FTPC の場合の原因と利用者処置

| 結果メッセージ番号 | 原因 | 利用者処置 |
|-----------|------------------------------|--|
| "S3675" | 処理中に, サーバ側から FTP エラー応答を受信した. | LAN や相手システムの状態を確認する. 異常がなければ, CNTFTPC コマンドで再度ログインし, FTP クライアントのコマンドを投入する. |

新 記 事

表 2.39 制御機能名が FTPC の場合の原因と利用者処置

| 結果メッセージ番号 | 原因 | 利用者処置 |
|----------------|------------------------------|--|
| "S3675" | 処理中に, サーバ側から FTP エラー応答を受信した. | LAN や相手システムの状態を確認する. 異常がなければ, CNTFTPC コマンドで再度ログインし, FTP クライアントのコマンドを投入する. |
| 上記以外の結果メッセージ番号 | 結果メッセージ番号の原因と同じ. | 結果メッセージ番号の利用者処置に従う. その後, CNTFTPC コマンドで再度ログインし, FTP クライアントのコマンドを投入する. |

2017年10月25日発行

修正箇所 (章節項) : 「2.2 S5100~S5199 のメッセージ」の「S5166」 「注意 :」

旧記事

- 注意 :
- ・ ワークステーション表示……………あり
 - ・ ログング先……………SYSLOG

新記事

- 注意 :
- ・ 複数 LAN 接続で、NSS 記述のリンクグループ定義において、“通信プロセッサ動作モード” に SUB を指定している状態では、サーバが切り替わっていなくても、本メッセージが通知される。
 - ・ ワークステーション表示……………あり
 - ・ ログング先……………SYSLOG

2017年6月23日発行

修正箇所 (章節項) : 「2.28 S7900~S7999 のメッセージ」の「S7914」 「注意 :」にある表のコード RDA0606 行

旧記事

| コード | メッセージ | 意味 | 利用者処置 |
|---------|---|-----------------------------|------------------|
| RDA0606 | ネットワークで異常が発生した #text# FATAL ERROR OCCURS IN NETWORK #text# | ネットワーク環境に異常が発生したため、処理を中断した。 | ネットワーク環境の見直しを行う。 |

新記事

| コード | メッセージ | 意味 | 利用者処置 |
|---------|---|-----------------------------|---|
| RDA0606 | ネットワークで異常が発生した #text# FATAL ERROR OCCURS IN NETWORK #text# | ネットワーク環境に異常が発生したため、処理を中断した。 | ネットワーク環境の見直しを行う。 補足情報の原因と対処を以下に示す。 補足情報 : “API:ACCEPT, MDL:RPCSOCKACC, LOGNO:0060, ERRNO:00000009” 原因 : UXF ソケット数が不足したため、処理を中断した。 対処 : NSS 記述の UXF ソケット数を拡張する。 UXF ソケット数見積り : UXF ソケット数=1+接続相手数 |

2017年4月26日発行

修正箇所 (章節項) : 「2.10 S5900~S5999」の「S5905」 詳細情報部 表 2.119 部

旧記事

表 2.119 発信元が SC | SNS | SPLNET クライアント名の場合

~ (以下、略) ~

新記事

表 2.119 発信元が SC | SNC | SPLNET クライアント名の場合

～（以下、略）～

修正箇所（章節項）： 「2.27 S7800～S7899 のメッセージ」の「S7876」利用者処置部

旧記事

利用者処置： 下表を参照して対処する。

| 原因コード | 意味／原因 | 利用者処置 |
|--------|--------------|-----------|
| ～（中略）～ | | |
| 9900 | プログラムが誤動作した。 | SE に連絡する。 |

新記事

利用者処置： 下表を参照して対処する。

| 原因コード | 意味／原因 | 利用者処置 |
|--------|--------------------------------------|--|
| ～（中略）～ | | |
| 9900 | 自動ジョブサービスが動作できない環境である、又はプログラムが誤動作した。 | システム共通変数@TMSCODE の設定値を確認し、@EUC が設定されている場合は@SJIS に変更する。該当しない場合は、SE に連絡する。 |

2017年2月28日発行

修正箇所（章節項）： 「1.22 S2500～S2599 のメッセージ」の「S2502」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

原因：

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

利用者処置：

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して、物理ファイルを圧縮する。

新記事

原因：

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

論理ファイルが活性化されているマルチボリューム物理ファイルに対して、動的追加が発生し構成物理ファイル数が9個以上となるため、レコードを追加できない。

利用者処置：

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して、物理ファイルを圧縮する。

マルチボリューム物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで構成物理ファイルを圧縮する。または、マルチボリューム物理ファイルに関連する論理ファイルを非活性化し、動的追加が発生するレコード追加を実施する。

修正箇所 (章節項): 「2. 24 S7500～S7599 のメッセージ」の「S7502」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

SQL 文実行時に参照するインデックスの最適化情報が最新状態でないため、検索結果を格納する結果ファイルのレコード数が最大数を超えた。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して物理ファイルを圧縮する。

SETSQLI コマンドを実行し、インデックスの最適化情報を最新状態に更新して再度実行する。

新記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

論理ファイルが活性化されているマルチボリューム物理ファイルに対して、動的追加が発生し構成物理ファイル数が 9 個以上となるため、レコードを追加できない。

SQL 文実行時に参照するインデックスの最適化情報が最新状態でないため、検索結果を格納する結果ファイルのレコード数が最大数を超えた。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して物理ファイルを圧縮する。

マルチボリューム物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで構成物理ファイルを圧縮する。または、マルチボリューム物理ファイルに関連する論理ファイルを非活性化し、動的追加が発生するレコード追加を実施する。

SETSQLI コマンドを実行し、インデックスの最適化情報を最新状態に更新して再度実行する。

旧記事

表 2.199 補足情報一覧

| エラーコード | 詳細情報 1 | 詳細情報 2 | 詳細情報 3 | 意味 | 処置 |
|--------|---------|--------------|-------------|--|--|
| 6999 | SSL 関数名 | SSL 関数エラーコード | SSL 関数エラー詳細 | 以下のいずれかのエラーを検出した。 1) SSL 関数名が SSL_Accept2 の場合, SSL 通信用のポートに対して, クライアントから SSL 以外で接続しようとした。 2) 上記以外の場合, SSL 関数で予期せぬエラーを検出した。 | SSL 以外で接続するクライアントがないか, 運用方法を確認する。 または, Web ブラウザに返却する HTML 内容において, SSL 通信用のポートに対して HTTP でアクセスするハイパーリンク (http://) を記述していないか確認する。 または, Webjet などの Java アプレットを使用する Web アプリケーションを使用している場合は, クライアントに JRE がインストール済みである事を確認する。 上記の処置を施しても本現象が発生する場合, 以下の資料を採取して SE に連絡する。 ・システムログ ・WWW サーバ/EX のエラーログ ・UXF ソケットログ ・ネットワークセキュリティのログ |

新記事

表 2.199 補足情報一覧

| エラーコード | 詳細情報 1 | 詳細情報 2 | 詳細情報 3 | 意味 | 処置 |
|--------|---------|--------------|-------------|---|---|
| 6044 | — | — | — | 以下のいずれかのエラーを検出した。 1) システムに移入しているネットワークセキュリティ機構が, 新しい暗号化方法に対応していない。 2) 暗号化方法の設定値に誤りがある。 | 最新のネットワークセキュリティ機構をシステムに移入していない場合, 移入する。 WWW サーバ/EX 環境定義ファイルの SSLCipherSuite 命令の設定値(書式および暗号化方法値)に誤りがある場合, 修正する。 |
| 6999 | SSL 関数名 | SSL 関数エラーコード | SSL 関数エラー詳細 | 以下のいずれかのエラーを検出した。 1) SSL 関数名が SSL_Accept2 の場合, SSL 通信用のポートに対して, クライアントから SSL 以外で接続しようとした。 2) SSL 関数名が SSL_Socket で, かつ, SSL 関数エラーコードが 0010002C の場合, システムに移入しているネットワークセキュリティ機構が新しい SSL プロト | 左記のそれぞれの場合の処置を以下に示す。 1) SSL 以外で接続するクライアントがないか, 運用方法を確認する。 または, Web ブラウザに返却する HTML 内容において, SSL 通信用のポートに対して HTTP でアクセスするハイパーリンク (http://) を記述していないか確認する。 または, Webjet などの Java アプレットを使用する Web アプリケー |

| | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|
| | | | | <p>コルのバージョンに対応していない。</p> <p>3) 上記以外の場合、SSL 関数で予期せぬエラーを検出した。</p> | <p>ションを使用している場合は、クライアントに JRE がインストール済みであることを確認する。</p> <p>2) 最新のネットワークセキュリティ機構をシステムに移入する。</p> <p>3) 以下の資料を採取して SE に連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムログ ・WWW サーバ/EX のエラーログ ・UXF ソケットログ ・ネットワークセキュリティのログ |
|--|--|--|--|---|--|

2016 年 4 月 28 日発行

修正箇所 (章節項) : S7894

旧記事

| | |
|------|--|
| 7894 | <p>IO ERROR ACCESS TO NETWORK DRIVER</p> <p>ネットワークドライバに対する IO 発行中にエラーが発生した</p> |
|------|--|

補足情報:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ 詳細情報 1, 詳細情報 2, CSW, センス情報
- ・ 補足情報[, 結果メッセージ番号]

発信元:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ SC | LIN | リンク名
- ・ SC | NSS | SUBNET

メッセージのレベル:

B

原因:

ネットワークドライバに対して発行した IO がエラーで復帰した。

利用者処置:

SE に連絡する。

発信元が SC | NSS | SUBNET の場合

補足情報と結果メッセージ番号を以下に示す。

| 補足情報 | メッセージ番号 | 意味 | 処置 |
|-----------------|---------|---|---|
| SUBNET OVERFLOW | — | システム共通変数の 'サブネットマスク定義数' 以上のネットマスク定義を持つ NSS 記述を起動した。 | システム共通変数の 'サブネットマスク定義数' を NSS 記述のネットマスク定義数より大きく設定し、NSS を再起動してください。 |
| FILE | SXXXX | 作業ファイル作成に失敗した。 | /tmp ディレクトリが存在するか、または /tmp ディレクトリに空き (10KB 以上) が在るか確認して下さい。上記以外の場合は、本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。 |

| | | | |
|------|-------|--|--------------------------------------|
| CALL | S1020 | NSS を起動するには TLIBEX 環境が必要であるが、TLIBEX 環境になっていない。 | システム共通変数の多階層ルートライブラリの設定を TLIBEX にする。 |
| 上記以外 | その他 | その他エラー | 本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。 |

システム処置:

処理を続行する。

注意:

- ・ワークステーション表示……あり
- ・ロギング先……SYSLOG

新 記 事

| | |
|------|--|
| 7894 | IO ERROR ACCESS TO NETWORK DRIVER ネットワークドライバに対する IO 発行中にエラーが発生した |
|------|--|

補足情報:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ 詳細情報 1, 詳細情報 2, CSW, センス情報
- ・ 補足情報[, 結果メッセージ番号]

発信元:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ SC | LIN | リンク名
- ・ SC | NSS | SUBNET

メッセージのレベル:

B

原因:

ネットワークドライバに対して発行した IO がエラーで復帰した。

利用者処置:

SE に連絡する。

発信元が SC | NSS | SUBNET の場合

補足情報と結果メッセージ番号を以下に示す。

| 補足情報 | メッセージ番号 | 意味 | 処置 |
|-----------------|---------|---|--|
| SUBNET OVERFLOW | — | システム共通変数の'サブネットマスク定義数'以上のネットマスク定義を持つ NSS 記述を起動した。 | システム共通変数の'サブネットマスク定義数'を NSS 記述のネットマスク定義数より大きく設定し、NSS を再起動してください。 |
| FILE | SXXXX | 作業ファイル作成に失敗した。 | /tmp ディレクトリが存在するか、または/tmp ディレクトリに空き(10KB 以上)が在るか確認して下さい。上記以外の場合は、本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。 |
| CALL | S1020 | NSS を起動するには TLIBEX 環境が必要であるが、TLIBEX 環境になっていない。 | システム共通変数の多階層ルートライブラリの設定を@TLIBEX にする。 |

| | | | |
|------|-----|--------|---|
| | | | なお、TLIBEX 環境への移行に関する詳細は、『システム移行手引書』の「多階層ライブラリ運用環境の設定」を参照されたい。 |
| 上記以外 | その他 | その他エラー | 本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。 |

システム処置:

処理を続行する。

注意:

- ・ワークステーション表示……あり
- ・ロギング先……SYSLOG

修正箇所 (章節項): 7626 FAILED TO MOUNT LIBRARY ライブラリのマウントに失敗した

旧記事

| 詳細コード | 原因 | 利用者処置 |
|-------|-----------------------|--|
| 00A1 | マウント元パスのディレクトリが存在しない。 | DSPMNT I コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、CRTTDIR コマンドでマウント元ディレクトリを作成する。 |

新記事

| 詳細コード | 原因 | 利用者処置 |
|-------|-----------------------------------|---|
| 00A1 | マウント元パスのディレクトリが存在しない。 | DSPMNT I コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、CRTTDIR コマンドでマウント元ディレクトリを作成する。 |
| | 多重マウントで下位ディレクトリから先にマウント情報定義を追加した。 | DSPMNT I コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、DLTMNT I コマンドでそのライブラリのマウント情報の削除を行う。その後、多重マウントを行う場合は、上位ディレクトリから順番にADDMNT I コマンドでマウント定義情報を追加する。 |

2015年8月31日発行

修正箇所 (章節項): S6569

旧記事

注意:

原因コードと原因および利用者処置 (続く)

| 原因コード | 原因 | 利用者処置 |
|-------|-------------------------------|----------------------------|
| 0092 | ブロックの表示記号が正しくない。 | EDTFILE コマンドでファイルの内容を修復する。 |
| 0208 | ライブラリが存在しない。又は処理対象外のライブラリである。 | ライブラリ名の指定に誤りがないか調査する。 |

新 記 事

注意：

原因コードと原因および利用者処置（続く）

| 原因コード | 原因 | 利用者処置 |
|-------|--|--|
| 0092 | ブロックの表示記号が正しくな い. | EDTFILE コマンドでファイルの内容を修復す る. |
| 0127 | システムプログラムの動作で異 常が発生した. | 詳細情報のマクロエラーコードを参照する. 0035 ジョブと SCP の実記憶利用状況 を調べる. その他 SE に連絡する. |
| 0208 | ライブラリが存在しない. 又は 処理対象外のライブラリであ る. | ライブラリ名の指定に誤りがないか調査す る. |

以上